



## 勉強のリズムを作ろう

今週はいよいよ本格的な学習がスタートする。最初のうち、得意な科目に関しては、授業で易しいことをやっているように思うかも知れない。しかし、それが次のステップへの準備になっているわけだから、油断せずにきっちり理解を深めていこう。特に数学は、中学時代と同じことをやっているように見えても、高校数学的な視点や考え方がさりげなく含まれてくるので、「なるほど」と思う点があったら欠かさず復習をしておくこと。

英語や古典に関しては、音読するクセを今のうちからつけておくことよいため、復習の時に意識して音読するように努めよう。スラスラ音読できるなら、内容もしっかり理解できているということだ。自分の理解したことを、誰かに音読だけで伝えるつもりで練習するとドンドン力がついていくだろう。

また、よく分からなかったことをそのままにしないで、その日にうちに（先生に聞くなり、友だちに聞くなりして）解決しておくことも大切だ。

今、主として「復習」のことを書いたが、高校の国・数・英の勉強に関しては、予習が基本となることは言うまでもない。よく、予習に時間をかけると、復習の時間が取れなくなるという人がいるが、予習をきっちりやっておけば、授業が復習の一部になるので、家での復習は短縮化できるようになるものだ。各教科のガイダンスで指示された内容をこなすことをまずは当面の目標として、「予習」から日比谷での勉強のリズムを作るようにし

よう。

具体的には、時間割を一通り経験すると、予習が大変な曜日と比較的楽な曜日に分かるはずだから、それに合わせて「どの科目をどの曜日に予習するのか」、その計画を立てることが第一歩となる。もちろん、授業の前日に授業範囲の予習をするのが一番いい訳だが、すべての科目をそのようにこなしていく訳にはいかないだろう。だから、土・日も含めて、「何曜日に」「どの科目を」「どれくらいの分量」やるのか、大まかな目安をとりあえず決めてしまうのだ。そしてそれを実行しながら、部活の（下校延長の）曜日や小テストの日程なども考慮に入れて、変更を加えていくといいだろう。あまりキツイ計画を立てず、余裕のある…って、日比谷の授業をこなすには、そうそう余裕のある計画が立てられるとは思えないが、土・日をうまく組み込んで工夫してみよう。

計画を立てた後は、当然のことながら、それを「継続して」「実行すること」が大切である。同じ一人の先生に習っているにもかかわらず、成績に差が出てくるのは、その先生が指示した内容を、コツコツと「継続して」「こなせたか」どうかにかかっているのだ。

\*

前期の中間考査では、高校の勉強法が身につけられたかどうかを試される。考査前だけ準備すれば何とかあった中学時代とは違う（自学自習用教材もある…）ので、家での「自勉」を早く習慣化するよう心がけよう。